

高松大学単位互換科目履修案内

(平成24年度開講科目)

平成24年度 高松大学の単位互換科目について、下記のとおり募集します。

1 単位互換の制度について

香川大学、高松大学、四国学院大学、徳島文理大学、香川県立保健医療大学及び放送大学は、相互の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として授業科目の単位互換協定を締結しています。

単位互換とは、単位互換協定校の学生諸君が、他の大学の授業科目を履修し、そこで修得した単位を所属する大学（以下「所属大学」と呼びます。）が単位として認定するものです。

参加大学からは、それぞれ特色ある授業科目や、所属大学にはないユニークな授業科目が提供され、学生諸君の関心や興味に応じた授業を履修できるようにしたものです。

この制度により受け入れられた学生は、受入大学では「特別聴講学生」といいます。

☆ なお、放送大学については、別に各大学が取り交わす放送大学との覚書によるため、今回の履修案内から除外します。

単位互換制度による特別聴講学生は派遣（所属）大学における在学を条件とします。したがって派遣（所属）大学を退学した場合、受入大学における特別聴講学生の資格を失います。

特別聴講学生になるまで

履修希望の申し出	履修を希望する旨を所属大学担当係へ申し出ます。
↓	
当該大学への連絡	開講日時、場所等について、所属大学担当係から当該大学担当係に確認します。
↓	
当該大学で受講	実際に授業を受けて、受講するかどうかを学生本人が決めます。
↓	
単位互換科目履修願の提出	単位互換科目の履修を希望する方は、単位互換科目履修願・写真票を所属大学に提出します。 (所属大学から当該大学へ派遣を申請します。)
↓	
科目履修の許可	科目履修の許可は、所属大学から出願者に通知されます。 (単位互換科目履修願に基づいて選考を行い、その結果を所属大学に連絡します。)
↓	
受 講	受講者には、特別聴講学生証が交付されます。 受講の際には必ず携帯するよう心掛けてください。

2 授業料について

特別聴講学生にかかる検定料、入学料、授業料、試験料は必要ありません。

(ただし実験・実習・実技等でかかる教材費等については、実費を徴収する場合があります。)

3 単位互換履修対象科目・受入人数

履修対象授業科目・受入人数は、別紙「平成24年度 単位互換提供科目一覧表」、「シラバス」記載のとおりです。

4 手続方法等

(1) 受講者の資格

単位互換協定校（香川大学、高松大学、四国学院大学、徳島文理大学、香川県立保健医療大学）の学生で、所属大学が許可をすれば、どなたでも受講の資格があります。（ただし、科目等履修生・研究生を除きます。）

(2) 履修期間

履修する授業科目の開講期間とします。

(3) 履修手続

①「単位互換科目履修願」等の提出

履修を希望する科目について「単位互換科目履修願」「写真票」及び「写真（縦3.5cm×横2.5cm）1枚」を下記期間内に所属大学へ提出してください。ただし、前期、通年科目の履修を許可されたもので、引き続き後期に履修するものは提出する必要はありません。

提出期限	前期 平成24年4月20日（金）〔前期授業開始 4月9日〕
	後期 平成24年10月4日（木）〔後期授業開始 9月21日〕

②科目履修の許可

本学において、単位互換科目履修願、その他の書類により選考を行い、その結果を所属大学に連絡します。出願者へは所属大学から科目履修の許可が通知されます。

③特別聴講学生証

特別聴講学生は、本学が発行する特別聴講学生証の交付を受け、本学の施設・設備等を利用する際に携帯しなければなりません。

④履修の辞退

単位互換科目の履修許可を受けたものが、やむを得ない理由で履修を辞退する場合は所属大学を通じ辞退届を速やかに提出しなければなりません。

(4) 試験の実施方法

受験上の取扱い及び追試験・再試験の実施等については、本学学則等によります。

詳細は各科目担当教員の指示に従ってください。

所属大学と本学の試験日時が重複した場合は、原則として所属大学の試験を優先し、本学の授業科目については追試験を受験することになります。

(5) 単位認定

本学の評価基準による成績通知に基づき、所属大学の授業科目の履修単位として認定されます。

成績証明書は、原則として所属大学が発行します。

5 その他

(1) 本学の授業時間について

校時	時間
1校時	9:00～10:30
2校時	10:40～12:10
3校時	13:00～14:30
4校時	14:40～16:10
5校時	16:20～17:50

(2) 本学では、通学のために自動車・バイクの利用を認めていますので、学生は必ず自動車入構許可願・バイク入構許可願を提出して、許可を受けてください。

(3) 追試験・再試験願

本学での追試験の制度は、病気、忌引等やむを得ない理由がある場合のみ認められます。

また、試験を受けて不合格になった者に対して再試験が行われることがあります。

詳細については、本学教務課へ問い合わせてください。

この単位互換の実施についての詳細は、所属大学の担当窓口まで問い合わせてください。

◇平成24年度 高松大学主要学年暦

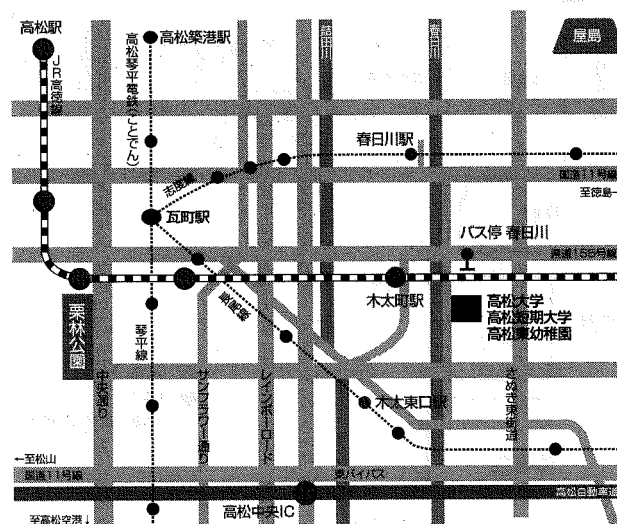
年	月 日	行事等
24	4. 9 (月)	前期授業開始
	5. 2 (水)	金曜日授業の振替日
	7. 17 (火)	月曜日授業の振替日
	7. 23 (月) ~ 27 (金)	前期授業評価
	7. 27 (金)	前期授業終了
	7. 30 (月) ~ 8. 10 (金)	前期末筆記試験および補講(経, 子1・2・4)
	8. 1 (水) ~ 9. 20 (木)	夏季休業, 集中講義
	8. 21 (火) ~ 24 (金)	前期末筆記試験および補講(保育実習Ⅱ参加者対象)(子3)
	9. 18 (火)	前期成績通知, 後期オリエンテーション
	9. 19 (水) ~ 20 (木)	前期末再試験
	9. 21 (金)	後期授業開始
	10. 10 (水)	月曜日授業の振替日
10. 12 (金) ~ 14 (日)	大学祭	
11. 21 (水)	金曜日授業の振替日	
12. 25 (火) ~ 1. 7 (月)	冬季休業	
25	1. 15 (火)	金曜日授業の振替日
	1. 18 (金)	大学入試センター試験場設営
	1. 25 (金) ~ 31 (木)	後期授業評価
	1. 31 (木)	後期授業終了
	2. 1 (金) ~ 15 (金)	後期末筆記試験及び補講
	2. 25 (月)	後期成績通知
	2. 26 (火) ~ 27 (水)	後期末再試験

※補講日 前期：4/14, 21(経2~4, 子3・4のみ), 28 5/12, 19, 26 6/2, 9, 16, 23, 30 7/7, 14, 21, 28
後期：9/29 10/6, 27 11/10, 17, 24 12/1, 15, 22 1/12, 26

◇高松大学へのアクセス

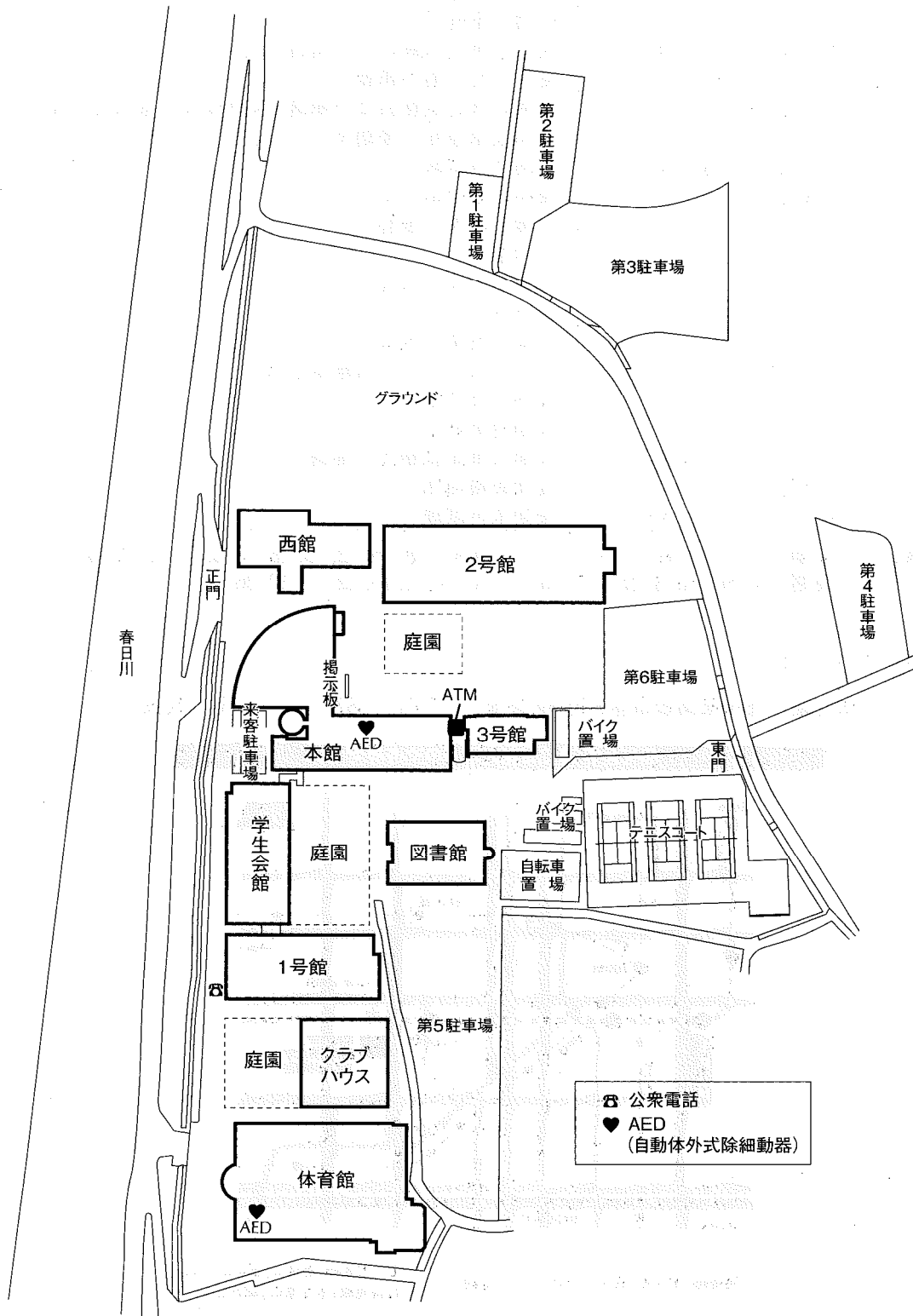
所在地 香川県高松市春日町960番地 TEL 087-841-3255 (代表)

高松大学・高松短期大学への交通機関



JR	高徳線「木太町」駅から1.2km	私鉄	ことでん志度線「春日川」駅から1.6km、 または長尾線「木太東口」駅から2km
バス	ことでんバス庵治線、浦生線、高松医療センター・大学病院線 (高松駅⑦番のりばから約20分乗車・瓦町天満屋⑩番のりばから約15分乗車) バス停「春日川」から500m		
高速道路	高松自動車道「高松中央IC」から3.5km		

◇キャンパスマップ



◇平成24年度 単位互換提供科目一覧表

番号	科目名	区分	単位	履修時期	曜日	校時	受入人数	担当教員	履修条件・その他	参考 (本学配当年次)
1	歴史	講義	2	前期	金	3	10	溝渕 利博		1～4年次配当
2	現代社会と福祉	講義	2	前期	金	4	10	井上 英晴		1～4年次配当
3	経営学概論	講義	2	前期	月	2	10	植木 英治		1年次配当
4	経営管理論	講義	2	前期	木	1	10	細川 進		2年次配当
5	財務諸表論	講義	2	前期	金	3	10	笠井 敏男		2年次配当
6	日本文学	講義	2	後期	金	4	10	和田 浩		1～4年次配当
7	地理	講義	2	後期	金	2	10	溝渕 利博		1～4年次配当
8	マーケティングリサーチ	講義	2	後期	水	2	10	正岡 利朗		3年次配当
9	国際経営論	講義	2	後期	木	1	10	細川 進		3年次配当
10	営業論	講義	2	後期	金	2	10	丸山 豊史		3年次配当
11	法人税法	講義	2	後期	木	4	10	笠井 敏男		3年次配当

※開設科目及び時間割については、変更する場合があります。
 受講の際は、本学教務課までお問い合わせください。

◇シラバス ※本学ホームページにも掲載しています。

1 科目名：歴史
担当教員：溝淵 利博(MIZOBUCHI Toshihiro)

【授業の紹介】

グローバル化が進化する中、今、「日本とは何か」が問われている。日本人一人ひとりへの問いかけである。「過去を知らなければ、未来を語ることはできない」とよく言われる。未来は、過去を振り返ることによってのみ明らかになってくる。日本には先人が生み育ててきた長い文化の歴史がある。本授業では、文化史の視点に立って日本の歴史を振り返り、日本文化の特質とその歴史的性格について学ぶ。

【教育目標】

身近な文化財や伝統文化を通して、それらが生まれてきた風土や歴史的背景を理解するとともに、日本や日本文化に対する関心を高め、歴史的なものへの見方や考え方を身につける。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション：文化史とは何か
- 第2回 日本文化の源流 (P.1～P.14)
- 第3回 古代国家の形成と日本神話 (P.15～P.39)
- 第4回 仏教の受容とその発展 (P.41～P.54)
- 第5回 漢風文化から国風文化へ (P.55～P.72)
- 第6回 平安時代の仏教文化 (P.73～P.83)
- 第7回 鎌倉仏教文化の成立 (P.85～P.110)
- 第8回 内乱期の文化 (P.111～P.124)
- 第9回 国民的宗教の成立 (P.125～P.136)
- 第10回 近世国家の成立と歴史思想 (P.137～P.156)
- 第11回 元祿文化 (P.157～P.173)
- 第12回 儒学の日本的展開 (P.175～P.185)
- 第13回 国学と洋学・明治維新における公論尊重の理念 (P.187～P.212)
- 第14回 近代日本における西洋化と伝統文化 (P.213～P.229)
- 第15回 まとめ・日本文化史から日本文化論へ

【授業時間外の学習】

テキストの「日本文化の歴史」は自学自習にも適しているため、予め授業前に該当ページを読んで自分なりの意見や感想をまとめておくこと。授業では毎回質問を行う。また、ユニットの区切りごとには小テストを行うので、授業の復習も怠らないようにしておくこと。

【成績の評価】

授業への出席点と受講マナーを重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な授業参加意欲の度合い等に加え、毎授業後に提出の受講シート・ユニットごと小テスト及び提出レポート・期末試験の成績などを総合して評価する。

【使用テキスト】

尾藤正英著『日本文化の歴史』(岩波新書、2000年)

【参考文献】

辻善之助『日本文化史』(全11巻、春秋社、1948～1956年) 井上光貞監修『図説歴史散歩事典』(山川出版社、1979年) 『図説日本文化の歴史』(全13巻、小学館、1979年) 家永三郎『日本文化史』(第二版) (岩波新書、1982年) 石田一良著『日本文化史―日本心と形―』(南海大学出版会、1989年) 香川県教育委員会編『香川の文化財』(香川県文化財保護協会、1986年) 佐々木高明著『日本文化の多岐構造』(小学館、1987年) 阿部猛・西理晴秋編『日本文化史ハンドブック』(東京堂出版、2002年) 村井義彦著『日本の文化II』(岩波ジュニア新書、2002年) 大久保翁樹著『日本文化論の系譜』(中央新書、2003年) 遠山洋也編『日本文化論キーワード』(有斐閣、2009年) ほか、必要に応じて授業の中で適宜紹介する。なお、本学図書館には、日本文化史関係の参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に利用すること。

3 科目名：経営学概論
担当教員：植木 英治(Ueki Eiji)

【授業の紹介】

本講義では、まず、経営学とはどのような学問か、またそれがどのように発展してきたのか。その研究対象である企業にはどのような役割があり、いかなる形態があり、現代の企業はどのように形成されて発展してきたのか。その代表的形態である株式会社はどのような特徴を備えて統治がなされているか。経営者とはどのような役割を果たしているのか。経営組織はどのような仕組みになっており、どのように管理されているか。企業文化とは何か。その機能は何か。経営倫理はなぜ重要か。企業の財産や損益の状態をどう把握するのか。日本の経営の特徴は何か。それはどう変化してきているのか、等々を概説する。

【教育目標】

この講義を通じて、企業と経営に関する基礎的な知識を修得し、経営学の幅広い一般的な理解を得させ、企業経営の全体的な把握をさせることを目的としている。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 経営学の研究方法と体系
- 第3回 経営学の歴史
- 第4回 現代企業の意義と形態
- 第5回 企業の成立と発展
- 第6回 株式会社の特徴と所有構造
- 第7回 株式会社の機能とガバナンス
- 第8回 組織の形成とコンフリクト
- 第9回 経営者の職能
- 第10回 リーダーシップとモチベーション
- 第11回 企業文化
- 第12回 経営倫理
- 第13回 会計制度
- 第14回 日本の経営の変貌
- 第15回 サマリー

【授業時間外の学習】

企業や経営に関心を持つように、その時々話題について四つほど課題を与え、文献やインターネットを通じて調べ、課題レポートを作成して、提出する。

【成績の評価】

試験の得点、課題レポートの内容および講義への出席回数などを総合して評価する。

【使用テキスト】

一橋大学イノベーション研究センター監修『はじめての経営学』(東洋経済新報社、2011年) 日本経済新聞社編『これからの経営学』(日本経済新聞出版社、2010年)

【参考文献】

必要に応じて随時指示する。

2 科目名：現代社会と福祉
担当教員：井上 英晴(INOUE Hideharu)

【授業の紹介】

いつ抜け出せるか知らない深刻な不況下、超米河期と言われる就職難、また、信じられないような凶悪犯罪、麻薬事犯、虐待の横行、生活保護受給率の上昇、保育所はどこもいっぱい待機を余儀なくされる子ども家庭の増加、少子化が進行し、人口減少へと向かう日本の少子高齢社会。政権交代もしたが、経済状況などの深刻化に社会のあり方のリフォームが追いつかないなど、暮らしにくく、人生設計が立てにくい世の中です。私たちがそこで生きながらそれをつくっていてもいる、同時進行形の生活過程(プロセス)、それが現代社会(現代日本社会)です。本授業では、福祉的なものの見方/考え方を基本に置きながら、経済危機にあえぎ、先行き不安と先が見えない現代日本社会の分析を通して、私たちの生活のあり方を問い直していきたいと思えます。

【教育目標】

現代社会の諸現象に右顧左眄(うこさべん)せず、情報の洪水から常に己(じぶん)というものをしっかりと保持できるような、思想、ものの見方/考え方、視点、その他分析力を身につけながら、現代社会の目指すべき公正な福祉社会の到来の可能性を己のものとして行動する人間の育成を目指します。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回～第15回 社会福祉の視点と現代社会の断片の分析

【授業時間外の学習】

授業の感想文を書き、課題文に回答することにより、授業の反復、さらなる自らの学びのきっかけづくりと遂行を合わせてもらいます。

【成績の評価】

出席状況・受講態度・レポート内容と試験とを合わせ総合評価します。

【使用テキスト】

必要ならプリントを配布します。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

4 科目名：経営管理論
担当教員：細川 進(HOSOKAWA Susumu)

【授業の紹介】

経営学は企業における管理の合理性の追求から生まれた。しかし、その後の多くの研究から、従業員(組織のメンバー)は必ずしも合理的に行動するとは限らないこと、また、状況・環境から多くの制約を受けていることが明らかとなった。本講では、人間性仮説の変化とそれに対応した経営活動・管理活動を理解することによって、経営管理の本質を探る。

【教育目標】

- ①企業における人間理解の変化を理解する。
- ②経営活動・管理活動の実践性を理解する。
- ③上記を通じて、就職後の経営実践へのイントロダクションの役割を持たせる。
- ④経営学検定試験をサポートする。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション(講義の概要、評価方法など)
- 第2回 管理過程と人間性仮説
- 第3回 計画機能と統制機能
- 第4回 合理性の論理と権限委譲
- 第5回 ビューロクラシーの合理性と逆機能
- 第6回 中間テスト1
- 第7回 戦略の策定と実行
- 第8回 外部環境の分析
- 第9回 経営資源の分析
- 第10回 中間テスト2
- 第11回 情報の論理とインフォーマル組織
- 第12回モチベーション
- 第13回 職務満足
- 第14回 支持的リーダーシップ
- 第15回 管理過程の統合性

【授業時間外の学習】

テキストの予習・復習を十分に行ってください。

【成績の評価】

- ①中間テスト2回および期末試験(100点×3)の総点により評価する。ただし、授業中の学習態度が悪い場合は減点する。
- ②最初の授業時間中に出席を指定する。出席を取る。
- ③欠席日数が5日以上の方または学習態度の悪い方については、単位を認定しない。

【使用テキスト】

細川進(2010)『組織の機能と戦略』学文社。

【参考文献】

経営能力開発センター編(2009)『経営学検定試験公式テキスト① 経営学の基本 第3版』中央経済社。

5 科目名：財務諸表論
担当教員：笠井 敬男 (KASAI Toshio)

【授業の紹介】

企業外部の利害関係者に対して、企業の財政状態及び経営成績を報告する目的で作成される財務諸表の基礎理論及び作成原理について、企業会計原則、会計基準を中心に、会社計算規則、財務諸表等規則を対比しながら総合的に解説する。

【授業目標】

財務諸表による会計情報は、企業経営の根本的なデータを提供するものであり、これを理解できることが、これからの企業経営、投資、起業（ベンチャー）にとって必須となっている。そこで、講義では、財務諸表を理解するための基礎知識の習得を目的とする。

【授業計画】

- 第1回 財務諸表の意義と体系
- 第2回 会計公準と会計原則
- 第3回 企業会計の一般原則
- 第4回～第7回 損益計算書
- 第8回～第12回 貸借対照表
- 第13回 株主資本等変動計算書
- 第14回 中間財務諸表
- 第15回 連結財務諸表

【授業時間外の学習】

テキストや事前に配布したプリント等から次回授業の範囲を提示するので、該当ページを読んでおくこと。随時、小テストを実施する。

【成績の評価】

出席状況、小テスト、期末試験などにより総合的に評価する。

【使用テキスト】

未定

【参考文献】

- 武田隆二著『最新財務諸表論』（中央経済社）
- 若杉明著『最新財務諸表論講義』（ビジネス教育出版社）

6 科目名：日本文学
担当教員：和田 浩 (WADA Hiroshi)

【授業の紹介】

この授業は、一般教養として身に付け、心を豊かに出来るような日本文学（一部漢詩を含む）の詩歌を教材として、筆記、朗読などを通して鑑賞しようとするものです。具体的には、小・中学校や高等学校の国語の教科書で取り上げられている名作を中心に、家族の情愛、恋、旅と望郷などのテーマ別に、上古から現代までの和歌、俳句、漢詩、現代詩、翻訳詩などについて学習し、暗誦を試みてもらいます。

【教育目標】

詩歌の世界と心を理解し、楽しむことが出来る素養を身に付けることを目標とします。

【授業計画】

- 第1回 授業の概要等について
- 第2回～第6回 家族の情愛をテーマとした詩歌
- 第7回～第10回 恋（男女の愛）をテーマにした詩歌
- 第11回～第14回 旅と望郷をテーマとした詩歌
- 第15回 まとめ

【授業時間外の学習】

授業で取り上げた詩歌の作者の他の作品を読むことや、授業で取り上げられなかった詩歌や作者について、テーマ別に読んでみるなどの課題を出します。

【成績の評価】

- ① 授業への出席と参加意欲・態度を平常評価として重視します。
- ② 論述形式のテストや課題提出により評価します。

【使用テキスト】

文春エッセイ『教科書で扱った名詩』（文藝春秋発行）

【参考文献】

授業の中で適宜紹介します。

7 科目名：地理
担当教員：溝淵 利博 (MIZOBUCHI Toshihiro)

【授業の紹介】

地理学 (geography) は空間的な視点から地球上の諸事象についてその実態や要因を研究する学問で、geo (土地) を graphia (記述する) という語源に発している。現在では地球環境への関心が高まり、自然や景観の価値が見直されている。本授業では、人類共通の至宝である世界遺産 (World Heritage) を通じて、世界の地形や自然の多様性について学ぶ。

【授業目標】

世界遺産は地球の生成や人類の歴史によって生み出された貴重な財産で、地理学の絶好な教科書でもある。世界遺産の学習を通して、世界の自然や文化の多様性を学ぶとともに、地球環境保護に対する意識や地理学に関する知見を深める。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション・地理学と世界遺産 (P. 1～P. 4)
- 第2回 ユネスコ世界遺産とは何か (P. 5～P. 19)
- 第3回 世界遺産の種類と評価基準—真正性と完全性— (P. 20～P. 22)
- 第4回 世界遺産委員会・世界遺産の分布図 (P. 23～P. 31)
- 第5回 自然遺産 (P. 32～P. 33)
- 第6回 # (P. 34～P. 35)
- 第7回 文化遺産 (P. 36～P. 43)
- 第8回 複合遺産・世界遺産基金 (P. 44～P. 51)
- 第9回 危機遺産・負の遺産 (P. 52～P. 67)
- 第10回 日本の世界遺産 (P. 68～P. 73)
- 第11回 # (P. 74～P. 79)
- 第12回 世界遺産の課題と展望—保全と開発のはざまで— (P. 80～P. 84)
- 第13回 無形文化遺産・産業遺産 (近代化遺産) (P. 85～P. 96)
- 第14回 世界遺産学と地理学 (P. 97～P. 121)
- 第15回 まとめ・世界遺産から世界の自然と文化の多様性を学ぶ (P. 122～P. 123)

【授業時間外の学習】

毎回授業中に質問をするので、テキスト『世界遺産入門』の該当ページを予習し、自分なりの意見や感想をまとめておくこと。また、ユニットの区切りごとには小テストを行うので、授業の復習も怠らないようにしておくこと。

【成績の評価】

授業への出席点と受講マナーを重視するとともに、質問事項への応答内容・主体的な授業参加意欲の度合い等に加え、毎授業後に提出の受講シート・ユニットごとの小テスト及び提出レポート・期末試験の成績などを総合して評価する。

【使用テキスト】

古田真美著『世界遺産入門—過去から未来へのメッセージ—』（シンクタンクせとち総合研究機構、2003年）。世界の気候や風土を踏認するため、手持ちの地図帳を持参すること。

【参考文献】

- 高橋伸夫・内田和子・岡本耕平・佐藤哲夫編著『現代地理学入門—身近な地域から世界へ—』（古田書院、2008年）
 - ユネスコ世界遺産センター監修『ユネスコ世界遺産』1～12（講談社、1996～1997年）
 - 奈良大学文学部世界遺産を考える会編『世界遺産学を学ぶ人のために』（世界思想社、2000年）
 - 不破敬一郎・森田昌敏編『地球環境ハンドブック』第2版（朝倉書店、2002年）
 - 秋道智爾編『水と世界遺産』（小学館、2007年）
 - 松浦見一郎著『世界遺産：ユネスコ事務局局長は語る』（講談社、2008年）
 - 林希一郎編『生物多様性・生態系と経済の基礎知識』（中央法規、2010年）
 - 安江則子編『世界遺産学への招待』（法政文化社、2011年）
- ほか、必要に応じて授業の中で適宜紹介します。なお、本学図書館には地理学・世界遺産学関係の参考図書が数多く所蔵されているので、積極的に利用すること。

8 科目名：マーケティングリサーチ
担当教員：正岡 利朗 (MASAOKA Toshiro)

【授業の紹介】

本講義は、企業及び公共組織等が商品の販売やサービスなどを促進させるために行うリサーチ活動について、理解を深めていただくことを目的とするものです。そして、実習を通じて、「リサーチの技法を確実に身につけていただくこと」を目標とします。

【教育目標】

本講義は、企業及び公共組織等が商品の販売やサービスなどを促進させるために行うリサーチ活動について、理解を深めていただくことを目的とするものです。そして、実習を通じて、「リサーチの技法を確実に身につけていただくこと」を目標とします。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アンケートの計画
- 第3回 アンケートの作成①
- 第4回 アンケートの作成②
- 第5回 アンケートの作成③
- 第6回 アンケートの実施
- 第7回 アンケートの集計①
- 第8回 アンケートの集計②
- 第9回 アンケートの集計③
- 第10回 報告書の作成①
- 第11回 報告書の作成②
- 第12回 報告書の作成③
- 第13回 報告書の作成④
- 第14回 調査結果の報告（プレゼンテーション）
- 第15回 学習のまとめ

【授業時間外の学習】

毎回の授業内容について、サブノートの該当箇所を参照するなどしてよく理解しておくこと。

【成績の評価】

「レポート提出」、「期末試験」を総合して点数を算出します。「レポート提出」は60点の配分とします。提出は授業中に編成した各グループ毎に行います。合計2回課しますが、第1回の課題は「アンケート調査票」、第2回の課題は「アンケート調査結果報告書」です。「期末試験」は40点の配分とします。以上、合計100点満点中60点以上を合格とします。

【使用テキスト】

とくにありません。

【参考文献】

とくにありません。

9

科目名：国際経営論
担当教員：細川 進 (HOSOKAWA Susumu)

【授業の紹介】

企業は、国内で生産した製品を外国へ販売する輸出を通じて外国と関係を持つが、それから一歩進んで、外国で直接に生産あるいは販売するようになり、多国籍企業あるいはグローバル企業へと発展していく。本講では、グローバル企業の経営戦略や海外現地との関係を検討する。

【教育目標】

- ①多くの企業が国境を越えて海外と関わっていることを理解する。
- ②グローバル企業の多様な展開を理解する。

【授業計画】

- 第1回 イントロダクション（講義の概要、評価方法など）
- 第2回 多国籍企業の展開
- 第3回 多国籍企業のグローバル経営
- 第4回 国際経営戦略1
- 第5回 国際経営戦略2
- 第6回 中間テスト1
- 第7回 国際マーケティング
- 第8回 技術移転と海外生産
- 第9回 海外研究開発
- 第10回 国際経営組織1
- 第11回 国際経営組織2
- 第12回 中間テスト2
- 第13回 海外子会社の経営1
- 第14回 海外子会社の経営2
- 第15回 中小企業の国際化

【授業時間外の学習】

配付資料の復習を十分に行ってください。

【成績の評価】

- ①中間テスト2回および期末試験（100点×3）の総点により評価する。ただし、授業中の学習態度が悪い場合は減点する。
- ②最初の授業時間に出席を指定する。出席を取る。
- ③欠席日数が5日以上の場合または勉学態度の悪い者については、単位を認定しない。

【使用テキスト】

無し。適時、資料を配付します。

【参考文献】

- 吉原英樹(2011)『国際経営論 第3版』有斐閣。
- 細川進(2010)『組織の機能と戦略』学文社。

10

科目名：営業論
担当教員：丸山 豊史 (MARUYAMA Shigefumi)

【授業の紹介】

営業とは、営利（利権の獲得と言ひ換へる）を目的として、一定の業務を反復かつ継続して行うことをいう。また、「営業」という言葉は、個々の営利行為ではなく、企業活動に用いられている設備や製造された商品、債権・債務といった資産やその運用方法など企業活動全体を指す言葉として用いられることもある。本授業では以上のような各種の定義のうち、営利を目的とした商品やサービスの販売活動を営業と定義する。したがって「営業」とは商品やサービスを販売することによって、顧客に利便性を提供し、その対価としての利権を獲得することとする。

商品やサービスの営業を行う上では、どのような営業組織とするか、どのような戦略をとるか、営業活動の管理項目として何が大切か、営業プロセス管理はどのように行うか、営業予算の作成と実績管理など多くのことを知らないと、お客様に喜び、利益を上げることは出来ない。

さらに、近年は、インターネットの普及により特定の企業による情報の占有が出来なくなり、顧客が主役の時代であるといわれるようになってきた。加えてウオーグマンやi-P o dのような画期的な商品は次々に出るわけではなく、その他の商品は少しだけ他の類似商品より優れているに過ぎない。さらにカリスコミュニケーターやロコミ販売等の流行が示すようにインターネットやWebの進歩により、顧客も情報発信が出来ようになり、企業と同じレベルの情報を持つことも可能になった。このような市場環境における営業の実態について講義をする。なお、この講義受講者はビジネス実務論I、ビジネス実務論II、消費者行動論、マーケティング論、簿記論I、簿記論IIの履修を前提とする。

【教育目標】

営業職の社員はどのようなことを業務として行っているのかをイメージする力をつけることを目標とする。具体的には、営業活動における競合とはどのようなことをさすのか、商品の差異化とは何か、ブームはどのように発生し、成長・消滅していくのかなど営業職社員としての基礎力を身に付けることを目標とする。そして、さらに販売士検定2級や1級等のより幅広い知識を身に付けることをめざしてほしい。

【授業計画】

- | | |
|----------------------|------------------------|
| 第1回 イントロダクション | 第9回 市場把握、営業組織規定と運営 |
| 第2回 大きく変わる企業像 | 第10回 直販、販売提携 |
| 第3回 営業と営業関連組織 | 第11回 営業プロセスと営業情報の収集・分析 |
| 第4回 営業活動の管理項目 | 第12回 提案営業・プロポーザル |
| 第5回 営業管理の展開 | 第13回 営業予算の作り方 |
| 第6回 営業戦略 | 第14回 実績フォロー |
| 第7回 商品開発戦略のポイント、商品知識 | 第15回 レポート作成 |
| 第8回 商品比較、低コスト戦略の難しさ | |

【授業時間外の学習】

事前に配布した資料に関しては予習を行い、質問点疑問点を明確にしたうえで授業にのぞむこと。学期中にミニ・レポートを課す。講義中のノートを必ず読み返し、レポート作成の参考とすること。

【成績の評価】

毎回の講義で出席を取る。また、ミニ・レポートおよび期末レポートを作成する。この出席日数および提出レポートにより、総合的に評価する。なお、レポートが提出されない者、出席が10日に満たない者は不合格とする。

【使用テキスト】

テキストは特に指示せず、授業ごとに必要な資料をプリントして配布する。

【参考文献】

- 藤屋伸二『ドラッカー経営のつばがよくわかる本』(秀和システム)
- その他の参考文献・参考図書は授業時に紹介する。

11

科目名：法人税法
担当教員：笠井 敏男 (KASAI Toshio)

【授業の紹介】

法人税法の基本的な内容について、主に会計学的観点から解説をする。法人税法における課税所得は、企業会計及び会社法に規定に従い計算された企業会計上の利益を基礎とし、税法の「別取の定め」により一定の調整を加えて誘導的に計算される。そこで、

講義では、法人税法の中核をなす課税所得の計算構造を明らかにし、その前提となる企業会計上の処理と税法上の取り扱いを対比し、課税所得の具体的計算方法としての企業利益と課税所得の調整について解説する。

【教育目標】

わが国において税の問題は、企業行動のすべてに関係する。税法、特に法人税法は、企業の会計処理に大きな影響を及ぼす。そこで、講義では、企業会計の理解を深めるために、法人税法（税務会計）の基礎知識の習得を目的とする。

【授業計画】

- 第1回 税務会計の基礎概念
- 第2回 課税所得の計算構造
- 第3回～第4回 益金の計算
- 第5回～第9回 損金の計算
- 第10回 営業費用と損失
- 第11回～第12回 税務調整
- 第13回～第14回 税務計算と申告等
- 第15回 更正 決定等

【授業時間外の学習】

テキストや事前に配布したプリント等から次回授業の範囲を提示するので、該当ページを読んでおくこと。

【成績の評価】

小テストと期末試験を総合して評価する。

【使用テキスト】

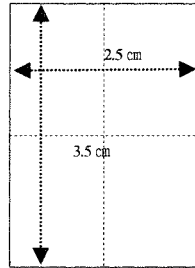
未定

【参考文献】

- 武田隆二著『法人税法精説』（森山書店）
- 高岡幸雄著『税務会計論講義』（中央経済社）

写真票 (特別聴講学生用)

写真票



※ 特別聴講学生学生番号

--

※この欄は記入しないでください。

正面上半身のカラー写真を中心線に合わせて貼り付けて下さい。

所属大学	
所属大学 学籍番号	

氏名	
生年月日	年 月 日生

複数科目を履修する場合でも1人、1部だけの提出で結構です。

高松大学単位互換科目履修願

平成 年 月 日

高松大学長 殿

下記のとおり貴学の授業科目を履修したいので出願します。

記

1. 出願者

所属大学 学籍番号		ふりがな 氏名		年 月 日生	男女
所属大学 学部・学科等	大学	学部	学科	第 学年次	
現住所	(〒 -)				
電話番号		携帯電話 (PHS)			
電子メール		※ 特別聴講学生 学生番号			

※過去(現在)本学において履修許可された者のみ記入して下さい

2. 出願科目等

開設学部	学部	担当 教員		科目 コード	
科目名					
単位数		開講区分	前期・後期・通年・集中		
出願理由					

3. 本学における他科目の出願状況等

今回出願する 科目を希望順 に記入	1	前期・後期・通年・集中	単位
	2	前期・後期・通年・集中	単位
	3	前期・後期・通年・集中	単位
	4	前期・後期・通年・集中	単位
現在受講中, 又 は過去に受講 した科目を新 しい順に記入	1	平成 年度 前期・後期・通年・集中	
	2	平成 年度 前期・後期・通年・集中	
	3	平成 年度 前期・後期・通年・集中	
	4	平成 年度 前期・後期・通年・集中	

(注) この単位互換科目履修願は1科目について1枚提出して下さい。

これ以下は記入しないで下さい

審査結果	許	可	不許可	学生番号	
推薦順位 (大学序列)		推薦順位 (科目序列)			